

「論理学と美学」の観点からの ホワイトヘッド形而上学の研究 【それにむけた資料調査・学会参加報告】

文学研究科 哲学専修 有村直輝



研究対象・研究背景

Alfred North Whitehead (1861-1947)

- ・初期に数理論理学者として知られながら晩年に独自の形而上学を展開した哲学者。
- ・主な著作は『過程と実在』、『プリンキピア・マテマティカ』(B. ラッセルとの共著)等。
- ・報告者は、この哲学者の思想の「論理学と美学」という観点からの読解を試みている。

研究上の問題点

国内ではホワイトヘッド研究者同士の交流の機会や文献にアクセスする手段が限られている。世界的な研究動向の把握や必要な資料の収集には海外での調査が必要。

第12回 国際ホワイトヘッド学会の参加、および資料調査

(於:ブラジル、ブラジリア大学)

渡航目的

- ・ 研究発表、意見交換
- ・ ホワイトヘッド研究の世界的な潮流の把握
- ・ 現地図書館での資料調査を通し開催地であるブラジルの研究状況を把握

渡航内容・成果

- ・ セッションやシンポジウムの参加を通し、欧米での過去の研究の蓄積や現在研究が盛んな中国の状況を把握する。
- ・ 報告者も以下の題目で発表を行い、参加者からさまざまな意見をいただく。
“Whitehead and Sheffer’s Incompatibility: An Investigation on the Relationship between Metaphysics and Logic”
- ・ 図書館での調査および現地若手研究者との議論から、数理論的観点やテクノロジー的観点からのホワイトヘッドを研究する動きがブラジルにあることを知る。

渡航後の成果

- ・ 報告者の発表内容を英語論文として電子ジャーナルDas Questõesに投稿(審査中)

ホワイトヘッド研究の拠点、プロセス研究センターでの資料調査

(於:アメリカ、クレアモント・スクール・オブ・テオロジー、プロセス研究センター)

渡航目的

- ・ 博論執筆に必要な先行研究の調査

渡航内容・成果

- ・ ジャーナルProcess Studiesの全バックナンバーなどの資料を精査・整理を行う。
日本から入手しづらい欧米の小規模出版社の研究書も閲覧、内容を整理する。

今後の予定

- ・ 現地での資料調査の成果を利用し博士論文を作成予定。また、日本ホワイトヘッド・プロセス学会、日本哲学会などで学会発表も行う予定。



プロセス研究センター